

サロン展

南薫造展

Kunzo Minami



①《夕日と舟》1949年 油彩 カンヴァス



②無題 油彩 カンヴァス



③《西洋女性》1909年 油彩 カンヴァス



④《ゴンドラ》1909年 水彩 紙

※①-④南薫造作、渋谷区立松濤美術館蔵

広島県内海町(現・安浦町)に生まれた南薫造(1883/明治16年-1950/昭和25)は、1902年に東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学し、西洋画を専攻します。卒業後はイギリスへ留学。その後もフランスなどヨーロッパ諸国をめぐりながら研鑽を積みました。

帰国後の1910年の第4回文展において渡欧作《坐せる女》が三等を受賞したのを皮切りに、同展への出品を続け、受賞を重ねました。以降は水彩画会創立や、文展および帝展の審査員を務めながら、洋画家として精力的な活動を続けます。また、1932年から11年間にわたって東京美術学校で教鞭をとり、美術教育に寄与したほか、帝国芸術院会員および帝室技芸員も務めました。

しばしば「印象派風」と称される輝く光にみちた鮮やかな色彩によって、詩情あふれる風景画や人物画を数多く手掛けた南薫造は、近代日本洋画壇に大いに貢献しました。

本展覧会は、東京では初めてとなる南薫造の回顧展です。渋谷区立松濤美術館に新たに寄贈いただいた作品を通して、彼の画業の変遷を辿るとともに、その魅力を紹介します。

同時開催

山口草四朗展

Soshiro Yamaguchi

佐賀県鹿島市に生まれた山口草四朗(1924/大正13-2005/平成17)は、1947年に一水会展に初入選以降、同会への幾多の出品や日展での入選など洋画家としての画歴を重ねます。また、1952年に銀座和光から肖像画制作の依頼を受けてからは、さらに肖像画家としても知られるようになります。渋谷の地を好み足繁く訪れた洋画家、山口草四朗の油彩画や水彩画12点で構成する展覧会をゆかりの地で開催します。



山口草四朗《面浮立(めんぶりゅう)》油彩 カンヴァス 個人蔵

2019年2月10日(日) — 3月17日(日)

前期：2019年2月10日(日) — 24日(日) 後期：2019年3月2日(土) — 17日(日)

休館日：2月12日(火)・18日(月)・25日(月)～3月1日(金)・4日(月)・11日(月)

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

会場：松濤美術館 2階サロンミュージーゼ(同時開催「山口草四朗展」2階特別陳列室)

主催：渋谷区立松濤美術館

入館料無料

※「南薫造展」は会期中、一部展示替えあり

学芸員によるギャラリートーク

「南薫造展」2月23日(土)・3月9日(土) 「山口草四朗展」2月17日(日)・3月3日(日)

各日午後2時～ 約30分 ※無料 ※事前予約の必要はありません



渋谷区立 松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 渋谷区松濤2-14-14

Tel.03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp>